

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	普 通 預 金	電 子 記 録 債 権
売 掛 金	繰 越 商 品	建 物	備 品
の れ ん	子 会 社 株 式	関 連 会 社 株 式	そ の 他 有 価 証 券
電 子 記 録 債 務	買 掛 金	未 払 配 当 金	資 本 金
資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	繰 越 利 益 剰 余 金
売 上	仕 入 割 引	売 上 割 戻	仕 入
売 上 割 引	電 子 記 録 債 権 売 却 損	手 形 売 却 損	仕 入 割 戻

1. 中野株式会社の発行済株式の 10%を¥494,000 で購入していたが、同社に対して影響力を行使する目的で 20%を¥1,011,500 で追加購入し、代金は当座預金口座から支払った。
2. 電子記録債権¥580,000 を割り引くために、取引銀行を通じて電子債権記録機関に当該債権の譲渡記録の請求を行い、取引銀行から割引料¥6,900 を差し引いた手取り金が当座預金口座に振り込まれた。
3. 三輪株式会社は大町株式会社を吸収合併し、新たに当社の株式 400 株（1 株当たりの時価は¥6,500）を同社の株主に交付した。同社から承継した資産および負債の評価額は、商品¥600,000、建物¥2,150,000、備品¥710,000、買掛金¥890,000 であり、株式の交付にともなって増加する株主資本は、60%を資本金、残額を資本準備金として計上する。
4. 10 日前に得意先茅野商店へ商品¥3,400,000 を掛けで売り上げ、適切に処理していた。同店に対しては、代金を 2 週間以内に支払った場合、0.5%分の支払いを免除することとしていたが、本日、免除額を差し引いた残額が普通預金口座に振り込まれた。
5. 千曲株式会社は定時株主総会を開催し、その他資本剰余金¥200,000 および繰越利益剰余金¥400,000 を財源とした配当を行うことを決定した。なお、株主総会時点における同社の資本金は¥80,000,000、資本準備金は¥18,000,000、利益準備金は¥1,500,000 であり、会社法に定める金額を資本準備金および利益準備金として計上する。

第 2 問 (20 点)

次の固定資産に関連する取引 (2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの会計期間) の [資料] にもとづいて、問 1 から問 3 に答えなさい。ただし、減価償却にかかる償却方法は定額法、記帳方法は直接法によることとし、決算にあたっては英米式決算法にもとづき締め切ること。

[資料] 固定資産関連取引

取引日	摘 要	内 容
4 月 1 日	前 期 繰 越	建物 取得日 : 2011 年 4 月 1 日 残存価額 : ゼロ 耐用年数 : 30 年 建設仮勘定 工事着手金 : ¥6,000,000
同上	リース取引開始	コピー機のリース契約を締結し、ただちに引渡しを受け、使用を開始した。 ・リース期間 : 5 年 ・年間リース料 : ¥400,000 (後払い) ・見積現金購入価額 : ¥1,730,000 ・残存価額 : ゼロ ・リース取引の会計処理 : ファイナンス・リース取引に該当し、 利子抜き法 を適用する
9 月 1 日	建設工事完了	前期から建設を依頼していた倉庫 (残存価額 : ゼロ 耐用年数 : 15 年) が完成し、建設業者から引渡しを受け、ただちに使用を開始した。工事の着工時に支払った着手金 ¥6,000,000 を差し引いた残額 ¥12,000,000 は小切手を振り出して支払った。
3 月 1 日	車 両 購 入	現金販売価額 ¥3,360,000 のトラック (残存価額 : ゼロ 耐用年数 : 4 年) を割賦契約で購入した。代金は、毎月末に支払期日が到来する額面金額 ¥291,000 の約束手形 12 枚を振り出して交付した。なお、約束手形に含まれる利息相当額は前払利息勘定で処理し、割賦金の支払時に経過分を支払利息勘定に振り替える。利息の配分は定額法により行う。
3 月 31 日	リース料支払	当期の 4 月 1 日に開始したリース取引につき、年間のリース料を当座預金口座から支払った。
同上	割賦代金支払	3 月 1 日の営業用車両の購入に際して振り出した約束手形のうち、期日の到来したものが当座預金口座より引き落とされた。
同上	決算整理手続	決算に際して、固定資産の減価償却を行う。ただし、期中取得分については月割計算にて減価償却費を算定すること。

問 1 総勘定元帳における建物勘定、車両勘定およびリース資産勘定への記入を行いなさい。

問 2 貸借対照表の流動負債および固定負債に計上されるリース債務の金額を答えなさい。

問 3 支払利息の金額を答えなさい。

第 3 問 (20 点)

次の〔資料〕にもとづいて、X3 年度 (X3 年 4 月 1 日から X4 年 3 月 31 日まで) の連結精算表 (連結貸借対照表と連結損益計算書の部分) を作成しなさい。

〔資料〕

1. P 社は、X0 年 4 月 1 日に S 社の発行済株式総数の 60% を 300,000 千円で取得して支配を獲得し、それ以降 P 社は S 社を連結子会社として連結財務諸表を作成している。X0 年 4 月 1 日の S 社の純資産の部は、次のとおりであった。

資 本 金	250,000 千円
資本剰余金	200,000 千円
利益剰余金	35,000 千円

S 社は X3 年度に 8,500 千円の配当を行っており、このうち 60% は P 社が受け取っている。また、のれんは 20 年間にわたり定額法で償却を行っている。

2. 連結会社 (P 社および S 社) 間の債権債務残高および取引高は、次のとおりであった。

P 社から S 社				S 社から P 社			
受 取 手 形	12,000 千円	支 払 手 形	21,000 千円				
売 掛 金	85,000 千円	買 掛 金	73,000 千円				
貸 付 金	170,000 千円	借 入 金	170,000 千円				
未 払 金	63,000 千円	未 収 入 金	63,000 千円				
未 収 収 益	2,550 千円	未 払 費 用	0 千円				
売 上 高	552,000 千円	仕 入 (売 上 原 価)	540,000 千円				
受 取 利 息	10,200 千円	支 払 利 息	7,650 千円				

残高または取引高に差異が生じているものは、次のような原因によるものと判明した。

- ① P 社が S 社に対して掛けで販売した商品のうち、期末現在 S 社において 12,000 千円が未検収であるため、仕入計上がされていなかった。
- ② S 社が P 社に対して振り出した約束手形のうち 21,000 千円は期末現在において期日未到来である。P 社はこのうち 9,000 千円を銀行で割引いており、これにかかる割引料 300 千円のうち当期末から満期日までの期間の額は 100 千円である。
- ③ S 社では支払利息を支払時に計上していたため、P 社に対する既経過の未払利息 2,550 千円が未計上であった。

このような差異については、連結上で消去仕訳のための追加修正仕訳、または、連結上で適切な科目への振替仕訳を行う (ただし、②③の非支配株主に帰属する当期純利益への影響については修正しないものとする)。

3. X2 年度末と X3 年度末に S 社が保有する商品のうち P 社から仕入れた商品は、それぞれ 150,000 千円と 170,000 千円 (上記 2 ①の商品は含まれていない) であった。P 社が S 社に対して販売する商品の売上総利益率は、每期 30% であった。
4. S 社は X3 年度中に土地 (帳簿価額 61,000 千円) を、P 社に対して 63,000 千円で売却しており、代金は期末現在において未決済である。